

## 2023年度 聖隷こども園ひかりの子 自己評価 結果

### 【聖隷こども園ひかりの子 教育・保育理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指します。

- \*愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- \*一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- \*自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- \*在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てできるように支援する。

聖隷こども園ひかりの子では、「保育者のための自己評価チェックリスト～保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために～」を使い、職員が自己評価を行いました。自己評価結果から見えてきた園としての課題を職員間で共有し、教育・保育の質の向上のため、次年度の取り組みにつなげていきたいと思えます。

	自己評価結果・課題
第1章 総則 1. 教育及び保育の基本と目標 2. 特に配慮すべき事項 (1) 教育及び保育の配慮 (2) 健康支援 (3) 食育 (4) 特別支援教育・障害児保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、〈教育及び保育の基本と目標〉に於いて、前年度同様、全体的には「理解している」と回答しているが、言語化することへの自信がない職員が多い。法令については、折に触れて、職員同士で確認していくことも必要だと感じる。</li> <li>・職員一人ひとりが配慮したり、心掛けたりしていることについて、共有する機会ももてると良い。</li> <li>・子どもに対しての声掛けについて、せかさ言葉や制止の言葉が不必要に用いられていることを振り返る機会となった。自己啓発とともに、職員間の連携や、より良い信頼関係の構築も必要である。</li> </ul>
第2章 子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に「はい」の回答が多い項目であり、また、「いいえ」と回答する職員に於いては、意識が高いからこそその回答であることが伺えた。「はい」と答えたものの、項目を具体化して考えると、園としてはまだ課題が多いと言える。職員間で、一つひとつの項目を具体的に言語化していくことが必要だと感じる。</li> </ul>
第3章 「ねらい」及び「内容」 1. 保育内容「健康」 2. 保育内容「人間関係」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の拡大によって希薄化してきた地域との関わりについては、2022年度は少し回復できた。今後もできるところで行っていく。</li> </ul>

<p>3. 保育内容「環境」 4. 保育内容「言葉」 5. 保育内容「表現」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境」について学びあうことを意図的に行ってきたが、子どもの興味関心にスピード感をもって対応できていなかったり、発達への意識の薄さを感じた。根拠を理解した環境づくりができるようにしていきたい。</li> <li>・「表現」については、全体的に評価が低い。特に音楽について苦手意識のある職員が多いが、ピアノを弾くことだけが「表現」ではなきことも学ぶ必要を感じる。子どもにとっての「表現」の理解を深めたい。</li> </ul>
<p>第4章 低月齢児の保育実施上の配慮事項 1. 乳児期の保育に関する配慮事項 2. 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、幼児担当の職員に於いて、自信がない傾向にある。乳児期からの育ちがその後につながっていくことをよく理解し、子どもの育ちを継続的にみていくことを共有する。</li> </ul>
<p>第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「全体的な計画」は園長が作成するものではあるものの、その確認のための時間（会議）を園内で確保していく必要があることを振り返った。</li> <li>・必要に応じて作成しているため、「はい」と答えられる項目も全体的には多いが、内容を深めるということについては、職員間で学び合っていきたいと感じる。</li> </ul>
<p>第6章 研修と自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍に於いて、少しずつ研修の機会が増えてきた。引き続き、オンライン研修は参加しやすい。</li> <li>・機会を与えられ、参加すれば、学びは得られることを自覚しているものの、研修への更なる積極的な参加を目指していきたい。</li> </ul>
<p>第7章 子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験を重ねることで、自信がついてきた部分がある一方で、苦手意識がある職員も多い。園内の連携を一層図りつつ、知識を身につける機会も必要である。</li> </ul>

<総評>

- ・保育の「環境」に目を向けて取り組みを進めてきた年であったため、「環境」についての項目は意識して回答している職員が多かったように思う。引き続き学びを深めながら、子どもの発達を促す環境造りを目指していきたい。
- ・昨年度と同様に、様々な関連法令や全体的な計画等について、会議や学習会の場を活用して、職員が学び合う時間が必要だと感じた。特に、自分自身で言語化するというを目指していきたい。
- ・自己評価の各項目について、回答に際し具体的に考えることで、自己啓発につながるが、「できていない」「理解できていない」ことに対してどう解決していくかを園として具体的に取り組みたい。
- ・まだまだ社会的に「不適切保育」が話題となるが、表面的なことだけにとらわれず、子ども一人ひとりを尊重するというこの意味を深く考え、丁寧に関わることの大切さを確認した。